

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所

〒220-8739 横浜市西区みなとみらい4-5-3

神奈川大学 みなとみらいキャンパス11階

TEL 045-664-3710 (内線 4100)

## 未来を描く

田中 則仁

ものの見方で、虫の目、鳥の目、魚の目、という考え方がある。森の中の虫になった視点で草木の一本から土壌までを見極めるミクロの視点。次には、鳥になって森全体を見渡す鳥瞰図の視野が求められるマクロの視点。さらに、魚の目では、水の流れを敏感に察知して、身を委ねたり、遡上したりする遊泳術のダイナミック、動学的な視点である。

企業の経営においては、自社課題に正面から向き合う虫の目と同時に、同業他社との競合関係を見極める鳥の目が必要である。さらに、自社の主力製品が社会の動きに同調しているのかを常に感じられる魚の目が求められる。多くの企業は、これらの視点を上手く目配りしながら、今日にいたっている。自社の経営資源を最大限有効活用し、得意な技術に磨きをかけながら、業界動向を注視して自社の立ち位置を確認している。さらには、顧客の要望がどのように変化しているのか、何に向かっているのか、何が無く困っているのかを鋭敏な感度で見極めながら、新製品の開発を手掛けていくことになる。

前のオリンピックが開催された1964年当時、高度成長期の日本経済では、通商産業省（現、経済産業省）が、次の10年間の日本経済の姿を示したビジョンを発表していた。通商産業省がこれからの日本の社会はこうなる、との具体的な姿を示すことで、民間部門もそれに呼応して設備投資を行い、創意工夫を施した新製品を世に送り出していた。消費者もそれに応えて新製品を購入し、投資が消費を呼ぶ、消費が消費を呼ぶという好循環をつくり上げてきた。官民一体となった経済成長の仕組みが形成されていた。

その底流にあったものは、未来を描くことであった。官民一体で10年後の未来を描き、それらを共有することで、見えない未来を可視化することがビ

ジョンの大きな貢献であった。企業の中での業務手順や作業過程を図式化することを、見える化という。これはそもそも業務で行われていることを判りやすくし、誰にでも理解できるようにすることで作業者が確認し、また他部署からの指摘を受けて業務改善することにもつながる。未来を描く可視化と、実際の業務を見える化することは基本的に異なる。

今の日本において、未来を描く可視化の視点が欠けているのではないか。筆者は25年前に英文の週刊経済紙で、アップル社の故スティーブ・ジョブズが、「将来、コンピュータは手のひらサイズになる。」、パームトップ・コンピューティングという記事を書いていたことを思い出す。1995年に、マイクロソフト社のビル・ゲイツがウィンドウズ95を発売して、デスクトップパソコンが一気に使いやすくなった。その頃、机上のパソコンが手のひらサイズになることなど、SFサイエンスフィクションの世界でしかなかった。しかし、その15年後には、iPhoneが登場し、さらに通信環境の進展により、5Gの世界が実現している。未来を描いたリーダーの先見性と可視化の力、その発想を実現すべく研究し開発してきたウオズニアックらの天才の力が相まってパームトップ・コンピュータが可能になった。

日本では、大型連休でも外出自粛を求められ、先が見通せない閉塞感がある。未来を描き、将来像を示すことで、少しでも希望と期待が持てるようなビジョンを共有できれば、そこに向けたもうひと頑張りもできようというものである。私たち一人ひとりが、明るい気持ちで、未来を描くことを心掛けたいものである。

(国際経営研究所所長／たなか・のりひと)

❖ **国際経営研究所所長に田中則仁教授が就任致しました。**

今年度4月より国際経営研究所長として石積勝教授に代わり田中則仁教授が就任致しました。石積教授には2期4年にわたり国際経営研究所の発展にご貢献・ご尽力賜り所員一同心より感謝申し上げます。

❖ **みなとみらいキャンパスに移転しました！**

国際経営研究所はみなとみらいキャンパスに移転完了し、4月より業務スタートしております。引き続きご支援の程宜しくお願い致します。



**2021 年度における国際経営研究所の活動について**

■ **2021 年度研究所所員の構成数 (4/1 現在)**

- 所員 (専任) 43 名
- 特任教員 7 名
- 客員研究員 20 名
- 常任委員 4 名 (新規委員 2 名)

■ **2021 年度研究所常任委員業務**

- 所長 田中則仁
- 常任委員 (4 名) (新任はゴシック)
  - 飯塚重善 < 研究事業担当 >
  - 小島大徳 < 出版担当 >
  - 青木宗明 < 広報担当 >
  - 中見真也 < 地域連携事業担当 >

■ **2021 年度共同研究プロジェクト/新規 3 件**

- ◇ 上場企業における IR 情報開示の情報技術構築に関する研究 (代表者: 小島大徳)
- ◇ 横浜みなとみらい地区における産官学連携を踏まえた上での地域活性化に関する学際研究 (代表者: 中見真也)
- ◇ 若年層向けヘルスプロモーションのための情報収集・分析方法の研究 (代表者: 飯塚重善)

■ **客員研究員 (順不同)**

< 新規 > 2021 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

- ◇ 鷺尾 紀吉 (元神奈川大学非常勤講師 ~ 2020 年度前期/元中央学院大学商学部教授 ~ 2018 年 3 月)
- ◇ 中村 陽一 (立教大学社会デザイン研究所所長 / 大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授)
- ◇ 大崎 恒次 (専修大学商学部准教授 / マーケティング研究、流通研究)
- ◇ 圓丸 哲麻 (大阪市立大学経営学研究科准教授 / 消費者行動研究、ブランド研究)

- ◇ 三井 雄一 (西南学院大学商学部准教授 / 消費者行動研究、広告研究、感情心理学研究)
- ◇ 大野 幸子 (和光大学経済経営学部准教授 / 消費者行動研究、マーケティングサイエンス研究)
- ◇ 浅野 健一郎 (一般社団法人社会的健康戦略研究所代表理事 / 株式会社フジクラ健康社会研究所・代表取締役 CEO / 健康経営研究)
- ◇ 岩瀬 敦智 (法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科・兼任講師 / 横浜商科大学商学部非常勤講師 / 有限会社スペースプランニング MAYBE 代表取締役)

< 更新 > 2021 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

- ◇ 畑中邦道 (2012 ~ 国際経営研究所客員研究員)
- ◇ 田中美和 (2012 ~ 国際経営研究所客員研究員)
- ◇ 小淵昌夫 (2014 ~ 国際経営研究所客員研究員)
- ◇ 土屋 翔 (2016 ~ 国際経営研究所客員研究員)

**2021 年度国際経営フォーラムについて**

『国際経営フォーラム』 NO. 32

特集テーマ: 『レジリエンス』

申込締切: 6 月 30 日 (水)

原稿締切: 9 月 30 日 (木)

※ 査読の場合は 9 月 21 日 (火) 締切

発行予定: 2021 年 11 月 30 日 (火)

**期限厳守でお願いします。**

**編集より:** 所長が代わり、キャンパスも移転。次号以降で国経研の新しい環境や研究所フロア (MMC11 階) のご紹介などもしていければと思っています。国経研だよりも時代に合わせて変わらなくちゃ。みなさまご期待ください!